



KANSAI UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2015

vol. 18



学習環境構築の第二ステージへ コモンズの普及，正課と連動した学習支援の展開

教育推進部 准教授 岩崎 千晶



巻頭言に登場させていただくのは3年ぶりになる。ちょうど3年前の2012年6月号に「授業外の学習を支える学習環境のデザインとは」というタイトルで執筆した。当時の巻頭言では、PISA型能力(OECD2001)に代表される新しい能力を育むための方法の1つとしてアクティブ・ラーニングを展開することが重要であると述べ、学習者が他者と協同し主体的に学ぶための学習環境として、関西大学にラーニング・コモンズを開設することの必要性について問うている。あれから3年たった現在、関西大学はどう変わったか。

関西大学は、まず2013年に凜風館に「コラボレーション・コモンズ」を、翌2014年には続けてITサテライトステーションの改修時に「ITセンターサテライトステーション2」をアクティブ・ラーニングが可能な環境にした。そして2015年4月には図書館に「ラーニング・コモンズ」を開設し、学生のアクティブ・ラーニングをサポートする環境を整備している。これらの施設では、学びの場所を提供するだけでなく、学生が主体的に学ぶことができるように学習支援も行なっている。

たとえば、コラボレーション・コモンズで

は、毎週水曜日に学生はお菓子をつまみお茶を飲みながら学ぶ「ラーニングCafé」を学習支援の一環として実施している。ラーニングCaféは、初年次教育レベルのアカデミックスキルを習得することを目標としており、速読や精読の仕方を学んだりリーディングを学ぶ回、スマホやタブレットで活用できるアプリを使いながら、情報を整理する技術を習得する回、論理的なスピーチをする回などを開催している。図書館ラーニング・コモンズではライティングエリアでTAが学生のレポート執筆やスライド作成に関する相談に応じるライティング支援をしている。年間のライティング相談件数も増加傾向にある。いずれの活動も、授業外にも学生が主体的に学ぶことができるような支援を展開している。

これらの学習支援は、正課と完全に切り離されたものであるか、というところというわけではない。ライティングでは授業の担当教員と連絡を取り合い、教員の意向に沿ったレポート作成の支援を展開するような取り組みがなされている。ラーニングCaféでも初年次教育の教員がCaféに参加することを授業で提案されるなどして、授業との連携が少しずつ行

なわれている。正課と学習支援が展開されることで学びの質を深めることも期待できる。今後はさらにこうした活動を充実させていくことが重要であると考えている。

このように、関西大学では3つのコモンズが整備され、学習支援も展開している。いわば第一ステージが完成しつつあるといえる。しかし欲張りな私は、さらに関西大学の学習環境の構築に関して提案を述べたい。それは第一に、これまでの知見を活かして、コモンズの学習環境を全キャンパスに構築することである。現行では千里山キャンパスを中心にコモンズが開設されている。今後は各キャンパスに応じた学習環境を展開する必要があると考える。第二に、正課と学習支援の連携をさらに増やし、学びの質を深めていくことである。少し大きなことを書いてしまい、お叱りを受けるかもしれないが、3年前の巻頭言でコモンズの必要性について述べた翌年、コモンズが設置された。今回も、学習環境構築の第二ステージとなる他キャンパスでのコモンズの設置や学習支援と正課のさらなる連携の実現が起ころうる期待を込めて!!